

## 風平さんグループ 第1号

寿都町樽岸、浜中野営場の近くに祀られている「風平さん」を、みなさんをご存知でしょうか。寿都湾は、昔から強いダシ風やヤマセ風が吹くところで、この風によるニシン漁や北前船の海難事故が絶えなかったといわれています。この強風を鎮めようと、寿都歌棄両場所の請負人らが、勧進したのが始まりと記録されています。



### 風平さんの呼び方

呼び方は人によって様々で、「かざかみさん」、「かぜなぎさん」、「ふうじん」、「ふうひょうだいしん」、「龍田神社」などありますが、一般的には「かぜがみさん」と呼ばれています。

### 祭典日

当時の神官が残した文書によると、二百十日（立春から数えて210日目）の9月1日頃は、台風の多い時期で、祭典日には、神主ら数人が神社に出向いた後、付近の空き地で子ども相撲大会が行われていたと記されています。

### 風平神社の歴史

「大正2年編集 歌棄村勢概要」には、下記の様に記されています。（一部加筆修正）

風波平穏及び漁獲豊穰の為、松前藩支配中、1823年（文政6年）5月、ヲタスツ場所請負人柳谷庄兵衛、スツツ場所請負人、勧請。

1877年（明治10年）7月再建、1879年（同12年）2月、寿都歌棄両村人協議の上、歌棄郡境界内持社とし維持修繕は歌棄郡中にて負担することとなった。

1901年（同34年）11月、暴風により破壊。同年12月、北海道庁より、再建許可が下り、再建。

1911年（同44年）8月、現在の石碑が建てられた。

風平神社は昭和に入ると、老朽化し、やがて有戸の厳島神社に合祀されることになりました。それ以降、訪れる人は少なくなり、現在に至ります。

当時寿都町に住んでいた富樫さく子さんによれば、戦時中（昭和20年）まではお堂が残っており、漁師の人たちは、漁の始まりや終わりに必ずお供え物（赤飯など）をしてお祈りをしたそうです。当時のことを記憶している調査員によると、小学3、4年生頃、湯別村から朱太川を泳ぎ渡り、浜中へ行く途中、古いお堂があったのを憶えているとのことでした。



### 所在地

▶道道229号線から、湯別駐在所の信号を北へ上る▶湯浜大橋を越えた先の突き当りを右に▶最初の曲がり角に見える「寿都町浜中野営場」の看板を左に進むと風平さんに会える。



### 風にまつわる よもやま話

寿都に伝わる  
風にまつわる  
おまじない？！

棒や竹竿などに、草刈鎌を縛り、風に向かって鎌の刃先を立てると風が吹き、無風状態の時に口笛を吹くと、風が穏やかに吹く。